

『生演奏を楽しむ音楽』

- 《1》 講座：伝統芸能の魅力 ③ 箏(こと)
- 《2》 日時：2026(R08)年 01 月 23 日(金) 10 時~12 時
- 《3》 場所：池田市ナムの広場
- 《4》 参加者：受講生:36 名、CA:2 名
- 《5》 概要：今回は、講師：片岡リサ先生、共演者：橋本桂子先生 による「箏」の講座でした。 講師のわかりやすい説明と、お二人の素晴らしい演奏で、日本人の心に触れた気分になりました。



《6》 片岡先生による講義(1)

① 「箏と琴」の違い

箏：13 弦・箏柱(ことじ)を使う・右手に箏爪

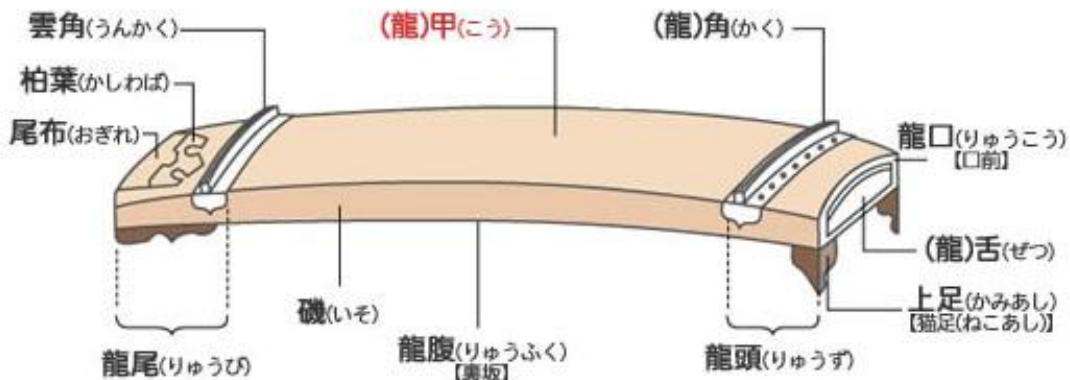
琴：7 弦・柱はない・素手ではじく

どちらも奈良時代に中国から伝來した。その後、日本では「琴」は衰退した。

「箏」は現在まで使用されているが、当用漢字表から漏れた際に、便宜上「琴」を使用するようになった。

② 「箏」について

長さが 182cm と長い。その長さから龍に例えられ各部の名称も「龍頭、龍尾、龍腹」などと龍の字が使用されている。



③ 音の調整

箏柱の位置を変えて、弦の長さを調整する。(弦が長い方が低音になる)

④ 左右の手の使い方

- ・右手の箏爪で弦をはじく。
- ・左手では、・ビブラート、・左手で弦をかなでると優しい音色、・右手が弾いている箏柱の反対側を押さえて音を変える、といった動きをしている。(結構忙しい)

《7》 片岡先生による講義(2)

① 箏の歴史

- ・奈良時代には、皇族・貴族の中という狭い範囲で広まったが、一般庶民までには広まらなかった。
- ・平安時代以降の鎌倉時代になると、武士が台頭するが、武士たちは「能楽」を好み、「箏」は寺院などで伝承されるにとどまった。
- ・江戸時代にスーパースターの「八橋検校」が出現し、現在の箏の基礎を確立した。
(「平調子」の考案、「六段の調」を作曲)

なお、京都の銘菓「八つ橋」は、箏の形をしているが、「八橋検校」に由来するといわれている。

《8》 片岡先生による「六段の調」の演奏



《9》 片岡先生による講義(3)&橋本先生との合奏

① 三味線の伝来

- ・16世紀半ばに中国大陸から琉球を経由して、大阪・堺?に伝來した。
- ・江戸時代に庶民の間で一気に流行。
- ・歌舞伎、文楽など様々なジャンルで使用される。
- ・箏との合奏を「地歌」といい、「弾き歌い」をする。



「箏：橋本桂子さん 三味線：片岡リサさん」で地歌「夕顔」を合奏

《10》 片岡先生による講義(4)

① 箏曲家 宮城道雄(1894-1956)

- ・箏曲に西洋音楽を取り入れる

「春の海」：尺八のメロディに箏が伴奏する。

片岡先生による

宮城道雄作曲 「汽車ごっこ」などの演奏

② 宮城道雄以降の箏曲

・箏・三味線・尺八を使用して様々な作品が誕生。

片岡リサ編曲の「アメージング・グレース」を披露。

(高音部も素晴らしい歌声でした)

(ブログ担当 3班 i)